

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成26年8月13日

【四半期会計期間】 第12期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

【英訳名】 Human Metabolome Technologies, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菅野 隆二

【本店の所在の場所】 山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2

【電話番号】 (0235)-25-1447(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 村上 秀明

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区八丁堀二丁目23番1号エンパイヤビル6階

【電話番号】 (03)-3551-2180(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 村上 秀明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第12期 第1四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	91,870	610,356
経常利益又は経常損失 () (千円)	88,804	5,962
当期純利益又は四半期純損失 () (千円)	89,960	1,627
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	90,470	3,876
純資産額 (千円)	1,480,243	1,548,137
総資産額 (千円)	1,713,329	1,759,329
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 () (円)	17.22	0.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	0.34
自己資本比率 (%)	86.4	88.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は、第11期第2四半期から四半期報告書を作成しているため、第11期第1四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
4. 第12期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
5. 当社は、平成25年10月16日付で普通株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
6. 第12期第1四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により80,700株の新株発行を行っております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の概況

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間末現在において当社が判断したものであります。なお、当社は、平成26年3月期第1四半期累計期間においては、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、前年同四半期との対比は記載しておりません。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、依然海外の景気に対する不透明感が残るものの、設備投資の増加や個人消費の一部に持ち直しの動きが見られる等、景気は緩やかに回復しております。当社が属するライフサイエンス業界においては、遺伝子解析分野での事業提携や買収が行われる等、個別化医療や予防医療の実現に向けた取り組みが活発になっております。

このような状況の中、当社グループはセミナーの開催やキャンペーンの実施により積極的な販促活動を展開した他、大うつ病性障害及び肝疾患のバイオマーカー開発を進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は91,870千円、営業損失は89,712千円、経常損失は88,804千円、四半期純損失は89,960千円となりました。

セグメントの状況を示すと、次のとおりであります。

メタボローム解析事業

営業体制強化のため営業担当者を増員した他、セミナーを17回開催し医薬分野での販促に注力しました。この結果、売上高は59,935千円、セグメント利益は9,099千円となりました。

バイオマーカー事業

大うつ病性障害のバイオマーカー開発においては、体外診断用医薬品開発に向けた開発を進めた他、独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）からの助成金を活用して肝疾患のバイオマーカー開発に着手しました。この結果、売上高は2,500千円、セグメント損失は12,029千円となりました。

メタボロミクスキット事業

大学向けにメタボロミクスキットを2システム販売した他、試薬や限外濾過フィルターの販売が増加した結果、売上高は17,107千円、セグメント利益は6,688千円となりました。

人材派遣事業

大学向けに研究者、技術者等を派遣し、売上高は12,326千円、セグメント利益は1,028千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,554,439千円となり、前連結会計年度末に比べ102,300千円減少しました。これは、仕掛品が9,404千円増加したものの、売掛金が74,239千円、現金及び預金が60,851千円減少したこと等によります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は158,889千円となり、前連結会計年度末に比べ56,300千円増加しました。これは、工具、器具及び備品が67,507千円増加し、有形固定資産の減価償却累計額が11,622千円増加したこと等によるものです。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は174,768千円となり、前連結会計年度末に比べ28,812千円増加しました。これは、短期借入金が20,000千円、1年内返済予定の長期借入金が30,000千円減少したものの、その他に含め表示している未払金が増加したこと等によるものです。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は58,317千円となり、前連結会計年度末に比べ6,918千円減少しました。これは、長期借入金が4,260千円、リース債務が3,642千円それぞれ減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,480,243千円となり、前連結会計年度末に比べ67,894千円減少しました。これは、新株予約権の行使により資本金が10,820千円、資本剰余金が10,756千円増加したものの、四半期純損失89,960千円を計上したこと等によるものです。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は、20,898千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、仕入、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、以下のとおり生産、仕入、受注、受注残並びに販売が著しく増加しております。

メタボローム解析事業

受注残は、127,525千円となり、前連結会計年度末に比べ75,008千円(142.8%増)となりました。これは、当事業の特性上、売上高の計上が下期にかけて増加し、上期中は受注残高が増加するためであります。

メタボロミクスキット事業

生産高4,182千円、仕入12,240千円となり、前年同四半期と比べ著しく増加しました。これは、大学向けにメタボロミクスキットや限外濾過フィルターの販売が増加したためであります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社は、例年第4四半期に売上高の計上が集中する傾向にありますが、当第1四半期の連結業績は、予想の範囲内で推移しております。また、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しにつきましても、現在のところ重要な変更事項はありません。そのため、第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成26年6月12日公表のとおりといたします。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,253,700	5,260,600	東京証券取引所 (マザーズ市場)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
計	5,253,700	5,260,600		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日 (注)1	80,700	5,253,700	10,820	1,227,228	10,756	1,215,944

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成26年7月1日から平成26年7月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が6,900株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2百万円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,171,900	51,719	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,100		
発行済株式総数	5,173,000		
総株主の議決権		51,719	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。なお、当社は、前第2四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日)については、四半期連結財務諸表を記載しておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	909,366	848,515
売掛金	122,259	48,019
有価証券	600,019	600,099
商品	476	7,548
仕掛品	65	9,470
原材料及び貯蔵品	9,250	10,185
その他	15,428	30,605
貸倒引当金	126	4
流動資産合計	1,656,739	1,554,439
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,990	15,278
工具、器具及び備品	148,525	216,033
リース資産	90,986	90,986
減価償却累計額	170,358	181,980
有形固定資産合計	84,144	140,317
無形固定資産	6,602	6,602
投資その他の資産	11,842	11,969
固定資産合計	102,589	158,889
資産合計	1,759,329	1,713,329

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4	79
短期借入金	20,000	-
1年内返済予定の長期借入金	47,040	17,040
リース債務	14,337	14,430
未払法人税等	9,622	2,182
その他	54,951	141,035
流動負債合計	145,955	174,768
固定負債		
長期借入金	31,460	27,200
リース債務	23,243	19,600
繰延税金負債	608	583
資産除去債務	9,518	9,543
その他	404	1,389
固定負債合計	65,235	58,317
負債合計	211,191	233,085
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,216,407	1,227,228
新株式申込証拠金	-	1,000
資本剰余金	1,205,188	1,215,944
利益剰余金	880,475	970,436
株主資本合計	1,541,120	1,473,736
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,017	6,507
その他の包括利益累計額合計	7,017	6,507
純資産合計	1,548,137	1,480,243
負債純資産合計	1,759,329	1,713,329

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	91,870
売上原価	46,870
売上総利益	44,999
販売費及び一般管理費	134,711
営業損失()	89,712
営業外収益	
受取利息及び配当金	169
補助金収入	1,259
その他	139
営業外収益合計	1,569
営業外費用	
支払利息	484
その他	177
営業外費用合計	661
経常損失()	88,804
税金等調整前四半期純損失()	88,804
法人税、住民税及び事業税	1,180
法人税等調整額	25
法人税等合計	1,155
少数株主損益調整前四半期純損失()	89,960
四半期純損失()	89,960

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	89,960
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	510
その他の包括利益合計	510
四半期包括利益	90,470
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	90,470
少数株主に係る四半期包括利益	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

当社グループの主要な事業であるメタボローム解析事業は、季節的な要因として多くの顧客の年度末にあたる当社第4四半期連結会計期間に売上高、利益ともに大きくなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	12,224千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	メタボローム 解析事業	バイオマーカー 事業	メタボロミクス キット事業	人材派遣事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	59,935	2,500	17,107	12,326	91,870
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	59,935	2,500	17,107	12,326	91,870
セグメント利益又は損失 ()	9,099	12,029	6,688	1,028	4,787

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	4,787
全社費用(注)	94,499
四半期連結損益計算書の営業損失()	89,712

(注) セグメント利益の全社費用 94,499千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	17円22銭
(算定上の基礎)	
四半期純損失金額()(千円)	89,960
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	89,960
普通株式の期中平均株式数(株)	5,223,067
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 8 日

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片岡 久 依 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勢 志 元 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。